

Korean Congress of Radiology (KCR) 2025 参加報告

開催期間：2025 年 9 月 24 日～27 日

開催場所：COEX Convention Center（韓国・ソウル）

大会テーマ：Unwavering Endeavors

開催記念：KCR 発足 80 周年記念大会

参加形態：招待講演（Refresher Course Speaker）

1. 参加概要

本年の KCR は、発足 80 周年を迎える記念大会として開催され、私は Refresher Course : Non-tumorous spinal lesion セッションの招待講演者として参加した。演題は“Non-tumorous spinal lesion including spinal dysraphism”で、脊髄炎、脊髄症、先天奇形など非腫瘍性脊髄病変を中心に 30 分講演を行った。本セッションは骨軟部領域の枠組みであったが、私の講演は骨病変をほぼ扱わない内容であったにも関わらず、新鮮で分かりやすかったと暖かい反応がありがたかった。なお、韓国では専門医は分野横断的なのだが、spine は椎体は骨軟部、脊髄は神経放射線が専門となっているとのことであった。

2. 学会概要

- ・参加者数：3,619 名（38 か国、うち海外参加 665 名）
- ・招待講演者：243 名（20 か国）
- ・セッション数：119
- ・発表数：568 件（教育講演を中心に構成）
- ・展示企業：65 社（245 ブース、展示面積 7,281 m²）

前年（2024 年：3,656 名、40 か国）と比べると、ややコンパクトながら内容が充実しており、効率的な運営が印象的であった。

現地開催が中心で、ライブ配信はなく、オンデマンド配信については問い合わせ中であるが、回答を得ていない。

会場はソウル江南区の大型複合施設 COEX Convention Center で、水族館や商業モールなどが隣接し、利便性が高かった。なお、来年（2026 年）は KINTEX（高陽市）への会場移転が予定されている。

3. 環境配慮（Green Radiology）への取り組み

KCR では環境負荷軽減を目的に、以下の Green Radiology 施策が実践されていた。

- ・プログラム・抄録集はすべて PDF 配布（紙媒体廃止）
- ・受付は QR コードによるスマートチェックイン
- ・名札は紙製でビニールカバーなし
- ・コンGRESバッグ廃止（過去のバッグ・マイボトル持参者には記念品進呈）
- ・段ボール製装飾の活用

学会全体に環境意識が徹底しており、「持続可能な学会運営」の好例と感じられた。

なお、機器展示会場（メインホールのすぐ隣だが、日本に比べて参加者は少ない）では、コーヒーサービス（チケット制）（韓国は水かコーヒーを飲む文化で、お茶はあまりのまないそう）や、各ブースにゆったり座って語り合えるテーブル席が設置されており、交流を深める意味でも非常に良い取り組みであった。韓国は Wi-Fi 大国であり、もちろん無料 Wi-Fi が利用できた。日本でもこのようなスペースがあると良いと感じたが、ITEM 内は混雑ぶりを考えると難しいが、各会場に隣接する空きスペースを活用するなどできないものか等少し考えてしまった。なお、ブースを 10 か所回ると先着で鯛焼きがもらえるイベントも行われていた。

4. 学会の雰囲気と内容

教育講演は満席で立ち見も出る盛況ぶりであった一方、一般演題の聴講者はやや少なめであった。討論は英語・韓国語ともに活発で、若手の発表も多く、国際性の高い構成であった。International では特にアジアからの発表が多く見られた。教育講演、Refresher Course と一般演題がほとんどで、シンポジウムはほとんど無い構成であった。AI 関連の研究発表が特に多く、MRI 画像からアルツハイマー病やパーキンソン症候群を解析するなど、画像診断 AI の応用範囲の広がり印象的であった。

ランチョンはご招待いただいたため他でとっており参加していないため分からないのだが、参加された先生から暖かい食事が配布されるとお聞きしている。

5. 社会的背景・話題

韓国では放射線科の横断的専門分化が進んでおり、骨軟部放射線科医が CT/MRI 読影から透視・生検・IVR まで一貫して担当する体制が一般的であるという。IVR は脳外科医と放射線科医の双方が行うが、現状では放射線科医が多いとのことであった。

なお、初期研修医が 1 年、その後 4 年の研修を経て放射線科専門医となるとお聞きしている。

韓国では 2024 年に政府の医学部定員増加計画に反対して研修医が長期ストライキを行

い、18 か月近くレジデントが不在となる状況が続いていた。2025 年 9 月時点では復帰が進んでいるが、医療現場の負担は依然大きいとのことである。

6. ジェンダー・ダイバーシティの印象

大会長が女性であり、座長・演者・聴衆のいずれにも女性が多く、女性比率は約半数に達していた。最優秀論文賞も女性研究者が受賞しており、韓国放射線医学界における女性活躍の進展が印象的であった。現地の先生から「この 10 年で社会が大きく変わった」と伺い、世代を超えた変化を実感した。まさに、テーマ“Unwavering Endeavors”を実践されてきたのだと感慨を覚えた。

7. 所感

今回の KCR 2025 は、テーマ“Unwavering Endeavors”に象徴されるように、前向きに進化を続ける韓国放射線医学会の姿勢を強く感じる大会であった。日本から参加された先生に“韓国の 40 代の放射線科医は今の道を自分達に開いてくれた諸先輩を大変尊敬している”とお聞きした。自分がそんな先輩になれたか、今からでも出来ることは何か、考えさせられた。国際的な連携、AI 技術の進展、環境・多様性への意識など、多くの面で示唆に富む内容の学会であり、日本における今後の学会運営や教育にも多くの示唆を得た。